



新たな年がスタートした。

今年の4月には成年(成人)年齢を18歳に引き下げる改正民法が施行されるなど、学校における金融教育の重要性は高まるばかりだ。私どもが事務局を務める県金融広報委員会でも、県内の学校に「研究校」を委嘱し、金融・金銭教育の研究・実践を支援している。研究校がこれまでの成果を披露する発表会を拝見する機会があったので紹介したい。まず、昨年11月に訪問した

日銀水戸事務所長 上野 淳

生きる力育む金融教育

北茨城市立常北中では、学んだことを生涯にわたるこれからの生活に生かすことができ、金融教育を目指して取り組んできた。発表会当日の公開授業では、①限られた予算の下、住宅費や食費、自動車口

支払い方法をシミュレーションする③税金の使い道や選挙の意義を考えた上で、よりよい社会を実現するために大切なことを考える」といった授業が披露された。また、12月に訪問した県立

プレイングの形で発表する②各人が複数の資産運用方法から一つを選択し、イベント発生の都度資産価値がどう変化するかをゲーム形式で体感する③エクセルファイルを用いた自動車購入シミュレーションを通して各

インターネットなどのITが効果的に活用されていた③金融知識を学ぶだけでなく、それを豊かな生活やよりよい社会づくりにつなげていくことが意識されていた。など素晴らしい内容であった。また、活発に学ぶ生徒さんたちの姿や両校周辺の美しい自然環境も印象的だった。両校の先生方、ご指導いただいた市教育委員会、県教育庁学校教育部、金融広報アドバイザーの方々に改めてお礼を申し上げますとともに、私どもの立場からも生きる力を育む金融教育を引き続き支援してまいります。

①の組み方なども勘案しながら、グループでシェアハウスでの共同生活の計画を作成する②前払い、即時払い、後払いといった支払い方法を学んだ上でエクセルファイルを用いて、さまざまな場面での

大子清流高では「経済社会の諸問題に関心をもち、よりよい生活を送るために」をテーマに取り組んできた。公開授業では、①班ごとに悪質商法の事例や防衛策を調べ、犯人役、被害者役といったロール

から公的年金について理解する」といった授業が披露された。どちらの学校の授業も、①生徒に関心を抱かせ、主体的に参加させるさまざまな工夫がなされていた②エクセルや

クイズを解きながら理解する④徴を理解する④クイズを解きながら理解する

(次回は2月12日掲載)